

広島大学大学院
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
第8回ショートフィールドビジットを実施しました

平成26年12月15日（月）から16日（火）に、本プログラム学生及び教職員の合計20名が、放射線医学総合研究所（千葉市）、国立環境研究所（つくば市）にて、第8回ショートフィールドビジットを実施しました。

放射線医学総合研究所では、静電加速器棟、緊急被ばく医療施設、重粒子線棟などの見学を行い、物理学、生物学そして医学の側面における最前線の研究現場の学習を行いました。また、こどもに対する放射線の長期低線量被ばくの影響を評価するため、マウスやラットを用いた研究の最前線について学習しました。

国立環境研究所では、研究本館、環境試料タイムカプセル棟、水環境実験棟、RI・遺伝子工学実験棟などの見学を行い、東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所事故後の空間・水環境・土壌・森林における放射線測定結果やその動態などを学習しました。

参加した学生からは、「自身の専門分野ではない領域の最新知見や研究現場を見学する非常に貴重な学習機会となった」、「座学で学習した知識を振り返り、より深い知識の積み重ねとなった」といった多くの意見が聞かれ、非常に充実した見学となりました。



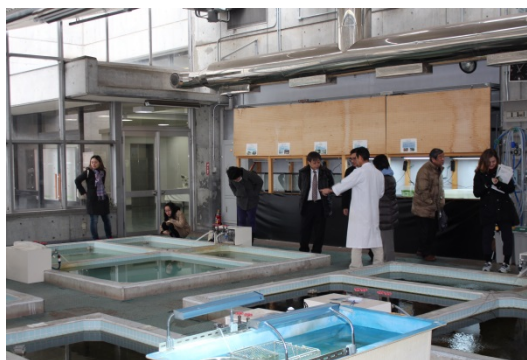
重粒子線棟の見学



長期低線量被ばく影響の最新知見の学習



福島県の環境放射線量の学習



水環境実験施設見学